

## ▼関西

## ボランティア活動

西野 義和(ABC)

関西民放クラブでは、昨年度からボランティア活動に力を入れていきます。仕事を卒業してから、社会に少しでもお役に立てることをやってみたいと始めたものです。今年度も、すでに3回開催しています。そのうち、一番新しい活動の様子をご紹介します。



7月28日月曜日、場所は、兵庫県宝塚市にあるデイサービス「ツクイ宝塚安倉」です。今回は、「白秋バンド」(川崎宏さん・正木恭彦さん・鈴木優さん・美田政志さん)

に加えて、女性デュオバンド「うえまち小町」(塚本けいこさん・沢井則江さん)写真、「宝塚(笑)劇場」(長井和恵さん中心に10人)が参加しました。当日来られた方々に喜んで頂く事を第一に考えた、笑いあり歌ありの楽しいパフォーマンスがコンセプトです。

会場には25人ほどのデイサービスに來られた方々が集まっています。平均年齢は80歳を超えているでしょうか。

始まりは「宝塚(笑)劇場」のメンバー2人による昭和のアイドルピンク・レディーの代表曲『UFO』『ペッパー警部』を派手な衣装で踊ります。そして今度は3人が登場し、バイオリンにのせてしつとりと『浜辺の歌』を歌います。次に突然、軍服姿の兵隊が現れ『麦と兵隊』を歌い始めます。今年は昭和100年、戦後80年の年でもあり、時代をとらえたパフォーマンスです。すると『マッケンサンバ』の派手な曲が流れ出し、黒の衣装に身を包んだダンサーが踊り始めます。そこにちょんまげ姿で金色の着物を着た「マツケン」が現れ、会場は笑いと手拍子で大いに盛り上がります。



続いて、女性アナウンサー2人のデュオ「うえまち小町」によるきれいなパフォーマンスです。『ラストダンスは私に』『野に咲く花のように』『涙くんさよなら』と続きます。

参加された方々には歌詞カードが配られていて、体を動かしながら口ずさむ人がたくさんいました。今度はそこに「白秋バンド」が加わり、昭和歌謡のヒットパレード。『上を向いて歩こう』『高校三年生』『翼をください』と続き、青春時代を思い出して大きな声で歌い始めます。みんな楽しそうです。最後は『明日があるさ』を、会場を一つにして歌いあげます。たくさん拍手を頂きました。そこでアンコールとして、正木恭彦さんが『ラヴ・イズ・オーヴァー』をソロで披露しました。正木さんは京都で

活躍するプロのミュージシャンです。施設の担当者から「イベントは大・大・大成功で『今日は本当に楽しかった』『ファンになったわ』と喜んでいただけました。皆様の素晴らしいパフォーマンスに、ご利用者様のお顔が笑顔であふれ、我々職員も心温まる幸せな時間となりました」とのご連絡を頂きました。

ボランティア活動は、参加された方々に喜んでいただくのと同時に、我々の心にも温かなものが流れてきます。

「またやろうね」。打ち上げで早くも次のボランティアに向けての練習の調整が行われたのでした。

